

<第105回調査>

2018年2月26日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2018年2月13日(火)13:00~2018年2月20日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は760件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

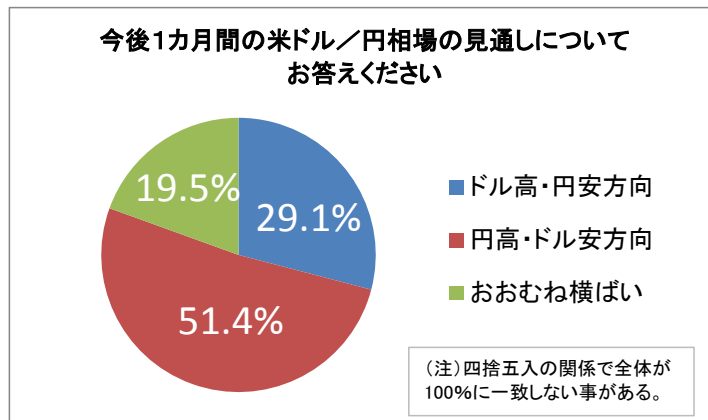
Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第105回調査結果略報：米ドル弱気の度合いが拡大】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

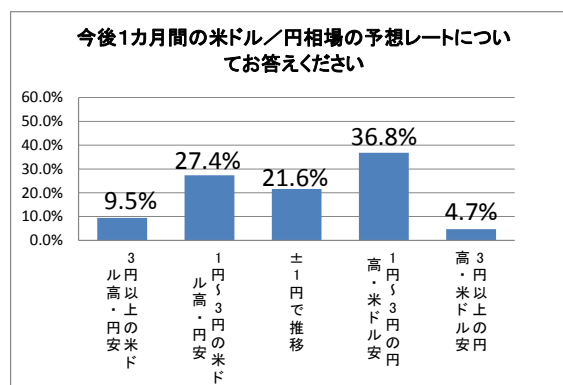
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が29.1%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は51.4%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は▼22.3%ポイントと、前回(▼1.2%ポイント)に続きマイナスDIとなり、弱気度合いが拡大した事になる。調査期間中の米ドル/円相場は、昨年来の安値を更新して約1年3カ月ぶりに105円台半ばまで下落する場面もあった。米国債が売られ、長期金利が上昇する中、世界的に株価が下落、ドルも全面的に下落するなど、2月の国際金融市場は全体がやや混乱した。そうした中、米ドル/円の先行きに弱気な見方が増えたと見られる。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の円高・米ドル安」が36.8%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安(27.4%)」、「±1円で推移(21.6%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(9.5%)」、「3円以上の円高・米ドル安(4.7%)」の順になった。ヒストグラムの形状はギザギザ型のノコギリ文様で、個人投資家の見方が割れている様を示している。「1円～3円の円高・米ドル安」が最多となった一方で「3円以上の円高・米ドル安(4.7%)」が最小だった点も興味深い。米ドル安・円高予想が優勢とはいえ、105円台からさらに大幅に米ドル安・円高が進むと見る向きは少数という事だろう。なお、前回調査の特別質問では2018年の米ドル/円の最安値の水準は105円が最多(17.9%)であった。



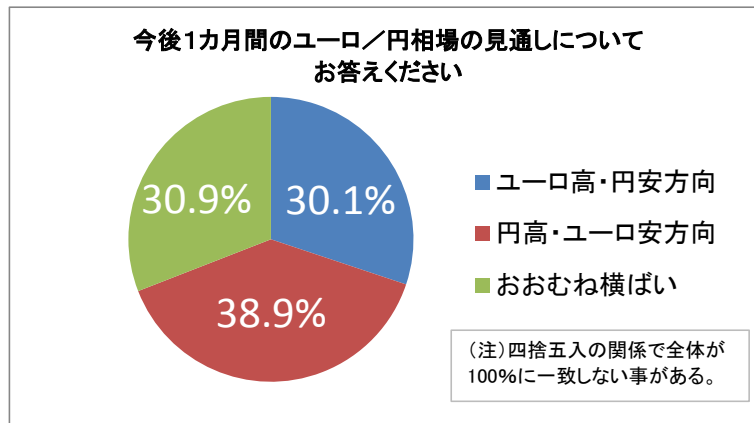
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が30.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.9%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼8.8%ポイントとなり、前回(△26.9%ポイント)から一転してマイナス圏に低下した。調査期間中のユーロ/円相場は、一時131.60円台まで下値を広げる場面があった。月初の高値から実に6円近い大幅な下落であり、従来の個人投資家の強気見通しを一気に打ち砕く急激な下落であったと言えるだろう。

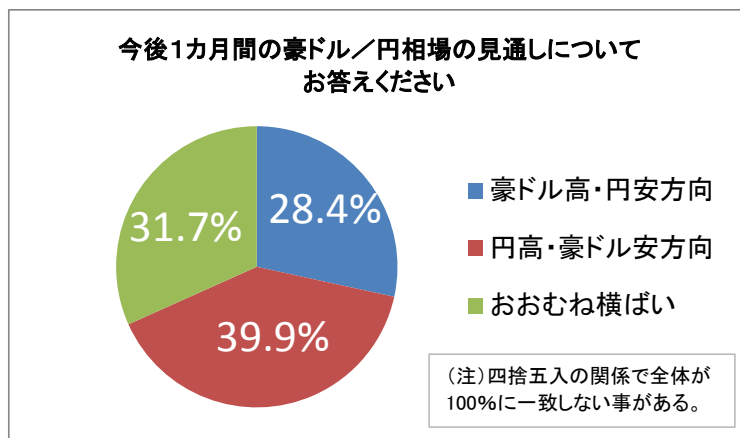
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が28.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は39.9%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼11.5%ポイントとなり、前回の△14.7%ポイントからマイナス圏に転落した。調査期間中の豪ドル/円相場は、世界的に株価が不安定化する中、一時83.30円台まで下落して約8カ月ぶりの安値を付けた。その後、混乱は徐々に収束し、株価も戻り歩調となる中、豪ドル/円は84円台後半にやや値を戻したが、個人投資家の信頼感は戻らなかったようだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

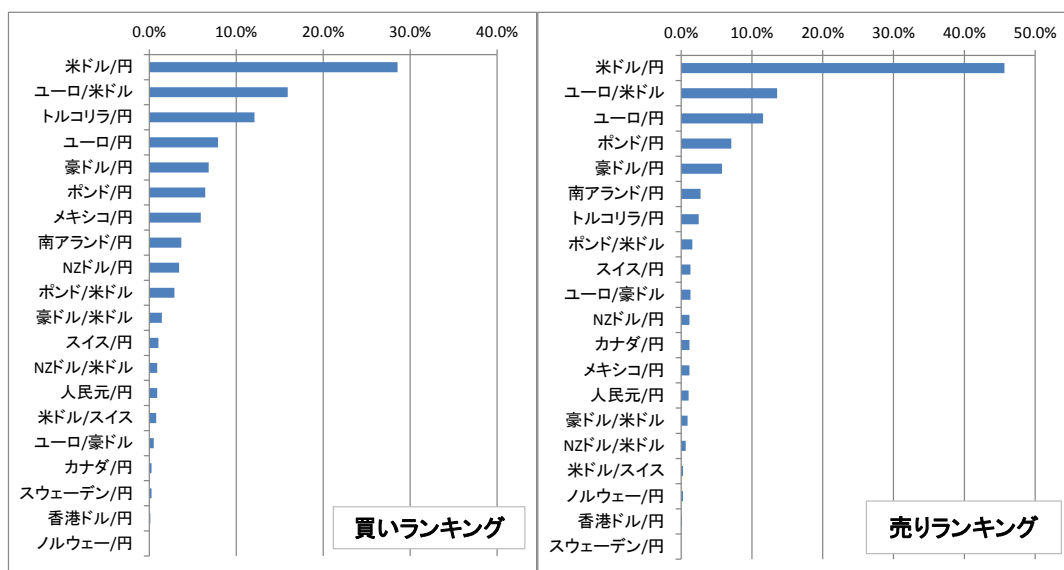
Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が28.6%の回答割合を集めて1位であった。以下、ユーロ/米ドル(15.9%)、トルコリラ/円(12.1%)、ユーロ/円(7.9%)、豪ドル/円(6.8%)の順に続いた。米ドル/円は65カ月連続で首位をキープしたが、その回答割合は前回の34.6%から低下。2位のユーロ/ドルが15.4%から小幅に増加した事もあって、その差は縮小した。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは米ドル/円が回答割合を45.7%(前回39.2%)に伸ばして16カ月連続で首位をキープした。以下、ユーロ/米ドル(13.6%)、ユーロ/円(11.6%)、ポンド/円(7.1%)、豪ドル/円(5.8%)の順に続いた。こちらは、米ドル/円とユーロ/ドルの回答割合の差が前月から拡大している。

なお、米ドル/円は「売り」で注目の割合が「買い」を上回り、ユーロ/米ドルは反対に「買い」で注目が「売り」を上回っている。個人投資家のドル売り志向の強まりが示された調査結果と言えるだろう。

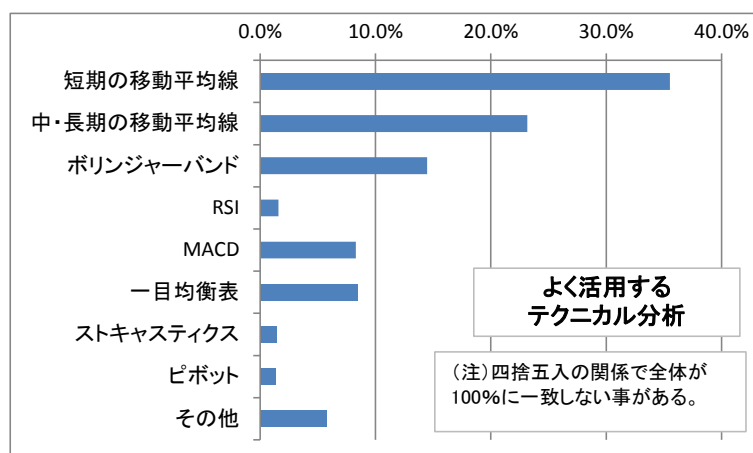


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

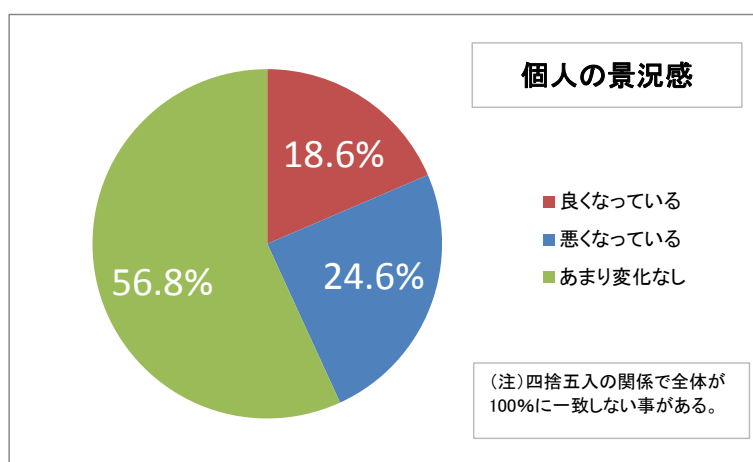
問6:テクニカル分析では主に何を活用していますか？(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「テクニカル分析では主に何を活用していますか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「短期の移動平均線」が最多で35.5%に上った。次いで「長期の移動平均線(23.2%)」、「ボリンジャーバンド(14.5%)」と続き、「一目均衡表(8.4%)」、「MACD(8.3%)」という順になった。外為短観でも示したように、個人投資家には「デイトレーダー」が多い事が分かっており、彼らが「短期の移動平均線」を駆使してトレードしていると答えたのはある意味予想通りと言える。一方で、個人投資家は逆張りを好むと言われるが、「MACD」や「RSI(1.6%)」など、いわゆるオシレーター系のツールを活用する向きは意外に少数派である事がわかった。



問6:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

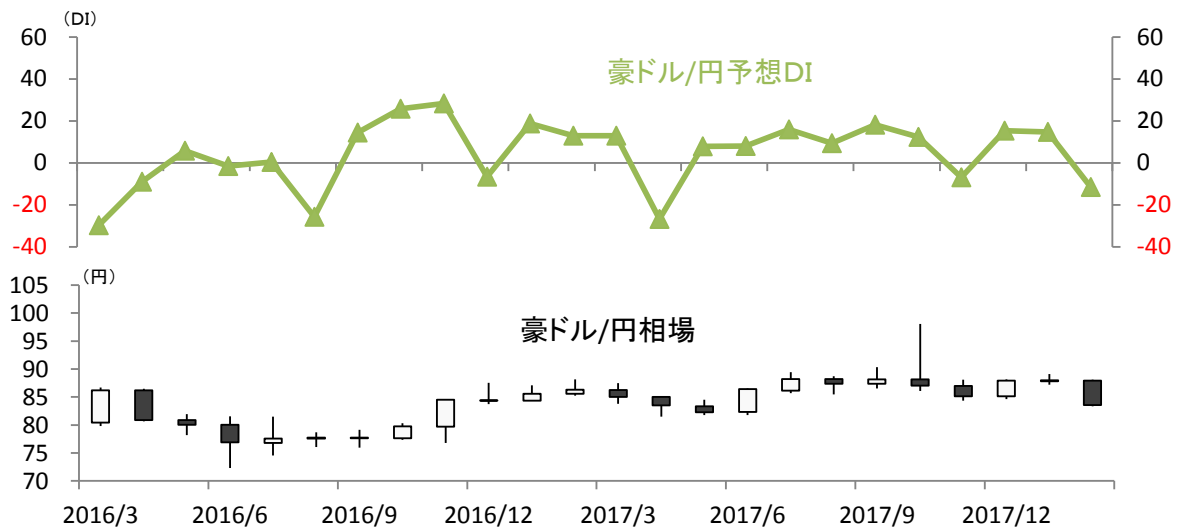
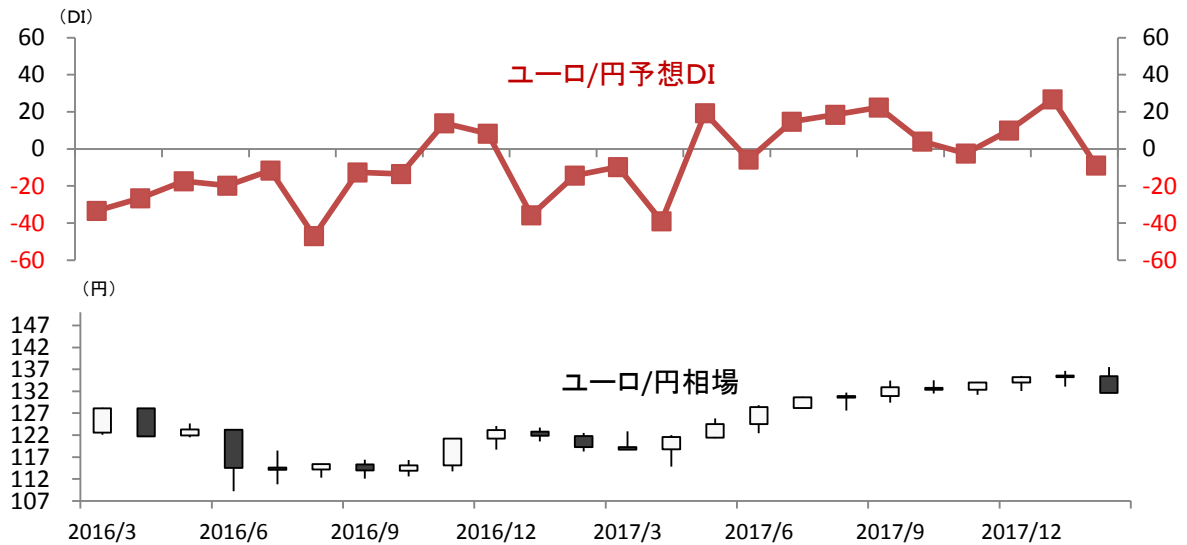
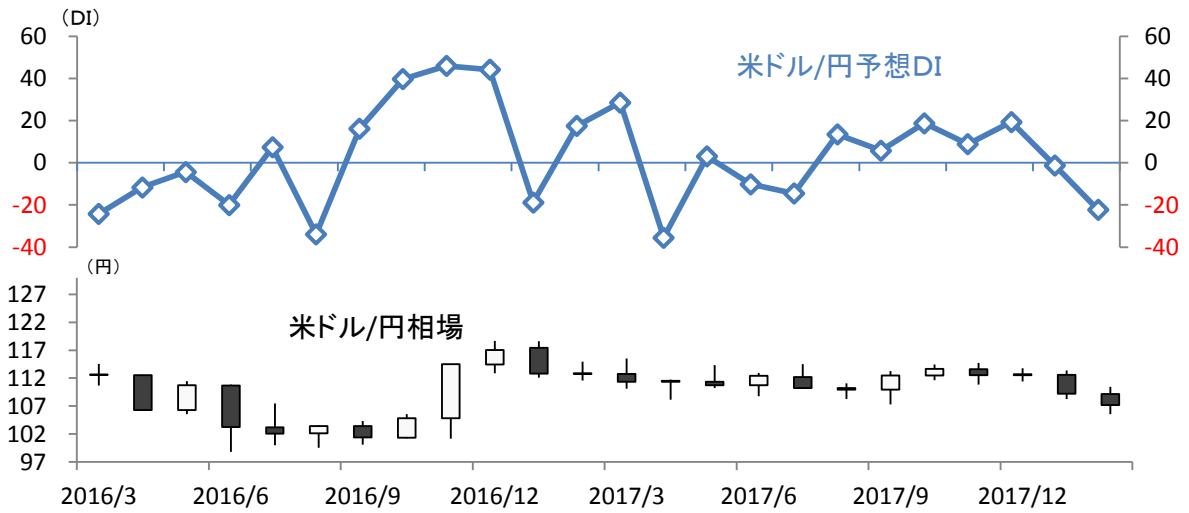
今回のもうひとつの特別質問として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が18.6%、「悪くなっている」が24.6%、「あまり変化なし」が56.8%という結果になった。3カ月前の第102回調査で同じ質問をした際は「良くなっている(19.7%)」、「悪くなっている(18.3%)」、「あまり変化なし(62.0%)」という割合だった。大きな変化ではないものの、「悪くなっている」として割合が増加するなど、個人投資家の景況感がやや悪化した点は気になるところだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第105回目となりました。調査開始から8年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2016年	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8	
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5	
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4	
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7	
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4	
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3	
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0	
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3	
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8	
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4	
	2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
		2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
3月		53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0	
4月		21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8	
5月		38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9	
6月		33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0	
7月		30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9	
8月		45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4	
9月		40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2	
10月		48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3	
11月		40.0	31.1	8.9	29.0	31.4	-2.4	26.9	33.8	-6.9	
12月		45.5	26.1	19.4	35.0	25.0	10.0	38.0	22.6	15.4	
2018年	1月	38.0	39.2	-1.2	48.2	21.3	26.9	37.3	22.6	14.7	
	2月	29.1	51.4	-22.3	30.1	38.9	-8.8	28.4	39.9	-11.5	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com